

第62回国連女性の地位委員会開会式における アントニオ・グテーレス国連事務総長のスピーチ（仮訳）

女性や少女たちの権利にとってこれほど肝心な時期に、最も活動的な政府間機関の1つである「国連女性の地位委員会」にこうして出席できることを、大変うれしく思います。

世界中で女性たちは自らの体験を話し、重要で必要な議論を始めようと呼びかけています— 村でも都市でも、役員室でもベッドルームでも、街頭でも、権力の中枢の間でも。南米でも、フランスでも、インドでも、中東でも、中国でも、そしてここアメリカでも……「ミー・トゥー」から「タイムズ・アップ」や「タイム・イズ・ナウ」に至るまで、女性や少女たちは虐待行為や差別的態度に対して声を上げています。

そして、はっきりさせておきましょう。私たちの目の前にある最も重要な点は、問いかげの持つ力です。権限は通常、黙っていても絶対にもらえません。権限とは通常、こちらから手に入れる必要があるのです。私たちは男性優位の文化を持つ、男性優位の社会に住んでいます。だから女性や少女が権限を持てるようにすることが、私たちの共通の最も大事な目標なのです。

何世紀にもわたる家父長制と差別は、有害な遺産を残してきました。性差別主義的姿勢と固定観念が、政府、民間セクター、学会、芸術、科学技術、そして市民社会や国連のような国際組織にさえ蔓延しています。

女性は先駆的な科学者であり、数学者です — しかし、女性が世界の研究開発ポストに占める割合は 30 パーセントにも達していません。女性は熟練した芸術家であり、作家であり、音楽家であり、映画製作者です。しかし、今年、アカデミー賞を受賞したのは男性が 33 人、女性はたった 6 人でした。女性は交渉したり何かを伝えたりということに関しては、天賦の才能があります——しかし国連では、女性大使の割合は 20 パーセント前後にとどまっています。

こうした統計データを変えることができ初めて、私たちは本当にこう言うことができるでしょう。「女性と少女たちに新しい時代がやってきた」と。

貧困のうちに生まれた少女は、学校を中退し、早くに結婚し、分娩の合併症に苦しみ、暴力を体験し、そしてそれをまた自分の子どもに伝える可能性ははるかに高いのです。寡婦、原住民の女性、障がいのある女性、そして性の規範から外れた女性は、特に大きな困難に直面しています。

平等を確立することで、女性にその潜在能力を十分に発揮するチャンスを与えることができます。そしてより安定した社会も築けるのです。女性が意思決定に参加することにより、平和の合意はより強固になり、社会はより回復力を増し、経済はより活性化するでしょう。

反対に、女性と少女の基本的権利に対する攻撃は、急進化や暴力的過激思想の前触れになりえます。

私は、国連、各国政府、市民社会、そして草の根のネットワークを集結させ、あらゆる所にいる女性や少女に手を差し伸べようというここにいる皆様の努力に対し、感謝します。今年の、皆様お集りの会議のテーマは、「農山漁村の女性」に注目しています。これは特に社会の片隅に追いやられ、医療、教育、テクノロジーから特に隔離されているであろう女性たちです。

しかし、農村の女性は家族や地域社会の支柱であり、土地や資源を管理していることも多くあります。こうした女性こそ、気候変動の復元や持続可能な開発の専門家かもしれません。

私たちは、女性に権限を与えるために頻繁に議論を行っています。女性たちがすでに行動を起こしている今、私たちは彼女たちの話に耳を傾け、支援しなければいけません。

女性の地位委員会は、その先頭に立っています。私たちはまた、女性や少女に対する暴力を終わらせる「スポットライト・イニシアチブ」における欧州連合（EU）との強固な協力関係を誇りに思っています。また、私たちは南米における女性殺し（フェミサイド）の問題に対処するプログラムをすでに開始しました——南米では、毎日のように女性が殺害されながら、何の処罰もないといったことが蔓延しているのです。

女性と少女への暴力を予防し根絶すること、そして社会の隅に追いやられた女性、原住民の女性、農山漁村の女性、そして女性の難民や移民をすくい上げることにより、全員が助けられ、誰も見捨てないということを保証することになるでしょう。またこれは、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」——つまり、貧困を根絶し、健やかな地球の上により安全でより持続可能な世界を創るという、私たちの世界レベルでの誓い——達成のためにも不可欠なことです。

国連には、陣頭指揮を執り、世界に手本を示す責任があります。私が事務総長に就任しましてから、私は変革を開始すべく具体的な取組を進めてきました。私たちはすでに上級管理グループ（SMG）において、初めての男女同数を実現しています。先月時点で、国連組織の最高指導部は女性 23 人、男性 21 人になりました。私の計画では、2021 年までにすべての分野の上層指導部で、最終的に 2028 年までには幹部全体で、男女同数を実現しようと考えています。

女性は今では、平和維持任務の責任者および副責任者の 3 分の 1 を占めていますが、目標にはまだ及びません——この割合はこれまでで最も高く、目標達成に向け順調な途上にはありますが、道のりはまだ遠く、私たちは力を合わせて取り組む必要があります。

それから私は、セクシュアル・ハラスメントを絶対に許さないことに非常に強くコミットしており、報告や責任の所在を明確にする仕組みを改善すべくプランを立てました。今では被害者のためのヘルプラインがあり、セクハラ専門の調査チームも立ち上げており、被害にあった女性たちに、組織というものへの信頼を提供しようとするものです。こうした信頼は、残念なことにまだできていませんが。

私が最初にとった措置の 1 つは、国連勤務者による性的搾取および虐待に対して、率先して取り組むことでした。私たちはこうした犯罪の防止と対処、そして犠牲者の支援のために、各国政府や市民社会と協力しています。私は、これまですでに実現した進歩を、さらに強固なものにしていこうと決意しています。

しかしながら、変革は戦略や統計にとどまっていはいけません。私は国連の文化を変え、全ての人に権限を与えるような環境を作ろうと決心しています。そしてこれは、自らの権利を求めて闘う世界の女性と少女に出来るかぎりの支援をしようとするなら、絶対に必要なことなのです。

女性と少女にとっての進歩とは、差別と暴力を支えている不平等な権限の均衡を変えることです。これは、現代で最も大きな人権課題というだけではありません。全ての人間にとっての利益でもあるのです。女性に対する差別は、地域社会、組織、企業、経済、社会に損害を与えます。だから全ての男性は、女性の権利を守り、ジェ

ンダー平等を支持するべきです。そしてだからこそ、私は自分のことをフェミニストと考え、それを誇りに思っているのです。

この委員会の仕事は、女性と少女の可能性を制限する固定観念と差別を終わらせるために、なくてはならないものです。学校にはじまり、オフィス、講堂、研究室、映画、広告、マスコミを通じて、私たちははっきりと訴えていく必要があります。女性の能力は、無限だと。女性の大志は、途方もなく大きいのだと。

皆さまどうか、女性の平等、尊厳、人権のため、声を上げ続けてください。皆さまの働きは、全ての人にとってより公正で適切な世界のために、不可欠なのです。私も自分の役割を、責任を持って果たしてまいります。